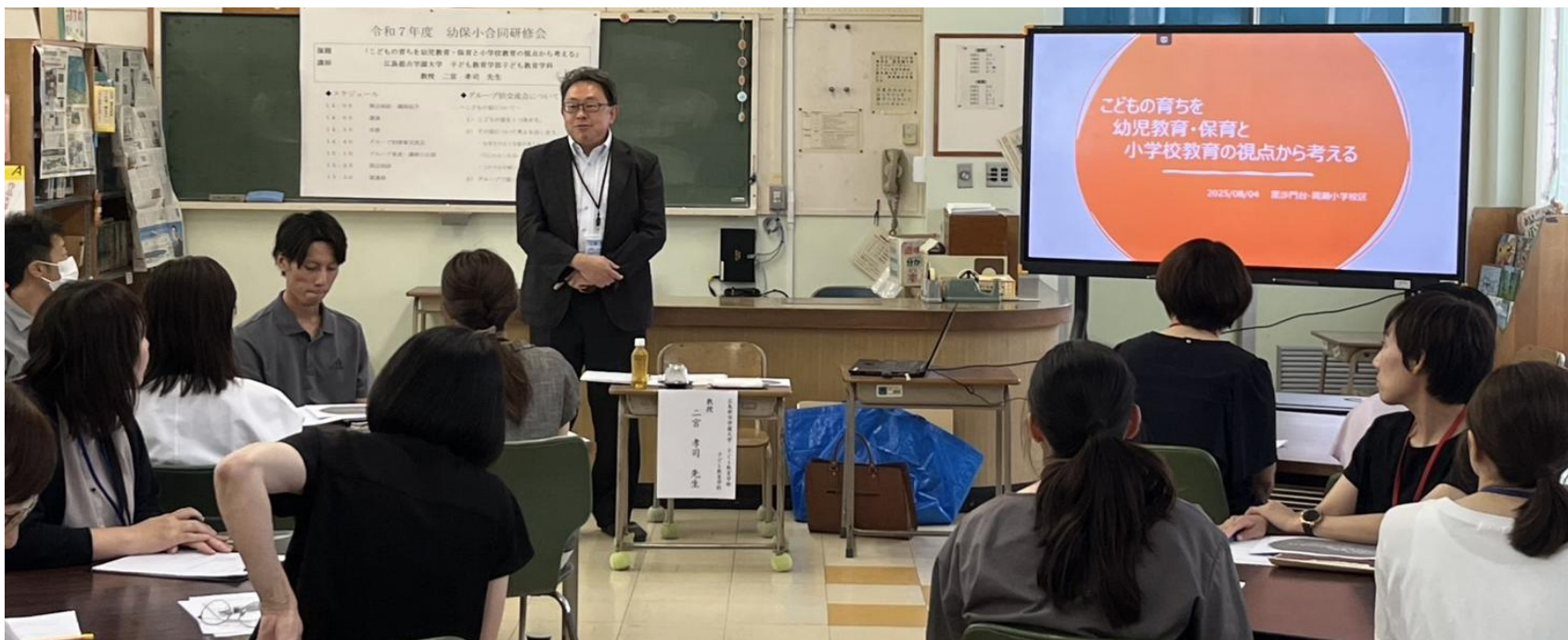


架け橋だより

乳幼児教育保育支援センター

幼保小の先生が語り合うことで学ぶ



— 外部講師を招き、小学校と近隣の幼児教育・保育施設の先生方が共に学ぶ —

8月4日、架け橋だより（第1号）で紹介した小学校では、小学校と近隣の園等が広島市乳幼児教育保育アドバイザーの二宮孝司氏（広島都市学園大学教授）を講師として招き、「幼保小合同研修会」と題した夏期研修会を開催しました。

研修会は、次の流れで進められました。

- ① 幼保小接続に関する国の動向や重要性、こども主体などについて講話
- ② こどもの姿についてグループ協議
- ③ 各グループで語り合ったことを全体へ共有

園・校の先生方は、①では、理論を学び、②では、接続期のこどもの姿について視点を深め、③では、各グループが②で協議したことを共有し、その視点を広げました。

あるグループでは、園でも、小学校でもこどもの「やってみたい。」といった意欲を認め、それを実践させてあげたいという共通点があることを共有していました。その上で、小学校の先生が「そこまではこれまでの研修等で理解や共有ができているが、園と学校では指導のスタイルが異なる。具体的に何ができるのかを考え実施しなくてはならない。」と声に出されるなど、今後へ向けて終始活発な意見を交わされていました。

全体共有では、各グループにおいて、こどもの離席や経験の差、登校しぶりや感情の抑制についての捉え方、こどもの自主性や達成感を大切にする指導方法など、こどもを真ん中にして、様々な視点で語り合いました。そうすることで、こどもの姿や指導等について、多くの気づきを確認し合うことができました。

まとめとして、講師の二宮先生は、幼保小接続の目的はこどもの資質・能力をつなぐこと、そのために園と学校の相互理解を深めることを示された上で、具体的に、「園によって幼児教育・保育の特色があり、こどもの育ちや特徴もそれぞれ異なるのは当然であるため、小学校では、こどもたちがそれぞれの特色を生かし合えるような学級運営、授業づくりが重要になる。そのためにも、園と学校の先生方のこうした語り合いを積み重ねていていただきたい。」と述べてまとめられました。

～幼保小接続の視点～

小学校と園の先生が幼保小接続の重要性について理論を学び、共に語り合うことにより、幼保小接続の現状についてメタ認知することができるため、例えば、接続期のカリキュラム作成や修正など、地域の特色に応じた具体的な取組を考えることにつながります。そのためにも、今回紹介する学区のように、園・校で語り合う機会を積み重ねていくことはとても重要になります。